

## 英語学習法 (前編)

**英**語を始めるタイミングは年々早くなってきています。私たち(今年で厄年)が子どもの頃は、近所に英会話教室はチラホラ出来始めていたものの、ほとんどの子どもが中学校からスタートするといった時代だったと思います。(皆さんはいつから英語を始めましたか?) そんな私も中学校から新しく加わった英語という教科にさほど関心もなく(日本一の田舎なので、正直英語は全く必要ない)、やっぱりただただ毎日をのほほ〜んと過ごしていました。今でも覚えています。中学校に入って初めての定期考査。5月くらいに行われた中間考査。英語はアルファベットと基本的な表現だけしかまだ習っていない状態で、2歳上の兄や当時陸上部だった私にクラブの上級生が言ったことは「1年生の中間考査で英語は100点絶対取れるから、大丈夫。」

ふ〜ん、そんなもんなんだと、やはりのんびり屋の私は思ったわけですが、試験の結果が返ってくると、正確な点数は覚えていませんが、100点でなかったことはしっかり覚えています。80点程度だったと思います。あちゃ〜、やらかしましたね〜。そして、中学に入って早々、英語はしばらくの間、苦手科目になってしまいました。ただ、私が幸運だったのは、英語を教えてくれた中学校の先生や塾の先生が好きだったことです。今でも思いますが、英語は時間を割いて

やれば必ず成績は伸びてくる。数学と比べてセンスや才能はあまり必要ないように思います。そして、英語学習の初めにつまずいたとはいえ、日々の英語の授業や塾での先生の指導を楽しく聞いているうちに徐々に成績は伸びて行きました。初めの点数が低かったため、伸び率に注目すれば全くの錯覚ですが、努力が実っている感覚でした。そんな勘違いの中、勝手に得意科目と思うようになり、以前のコラムでも書いたように、高校1年生の夏にニュージーランドに約1ヶ月間留学に行ったことで、自分の進む大学を大阪外国語大学と決めるに至りました。思う込みや勘違いが功を奏した稀有な一例です。

**そ**して、大学で知り合った妻と結婚し、4人の子どもと過ごしているのですが、私たち外大出身夫婦が子どもに教えた英語学習法が少しでも参考になれば幸いと思い恐れ多くもお伝えしたいと思います。ちなみに、私はロシア語専攻、妻はハンガリー語専攻でした。とまあ、いかにも英語が得意で、私たち夫婦が教えた方法が凄く良いかと言えば、正直自信はあまりありません。だったら、偉そうにわざわざ書くなよと自分でツッコミたくなりますが、当時は一応日本の国立大学では東京と大阪の2か所しか外国語大学はなく、2次試験でも英語の試験の比重が大きかったため、特に高校では真剣に英語をしましたし、妻はもともと英語が好きで得意だったようなので、大学時代のそれぞれの専攻語（ロシア語

やハンガリー語)の習得のための学習法や外国語習得のための考え方は参考に  
していただけるかと思いましたので、あくまでも1つの方法1つの考え方とし  
て読み進めてみてください。

**ち**ょうど上記のようなことを考えていた時に、たまたま会社が定期購読して  
いるビジネス雑誌『プレジデント』に「非ネイティブのための 英語勉強法」が  
特集されていたので、その内容も併せて紹介させていただきます。その前に、1  
番初めに書いた英語学習の低年齢化について、これはあくまで私見ですし双方  
の結果、分かりやすく言うと、早く始めた方が良いか適当な時期からで良いかの  
結論ではなく、早く始めなくてはいけないと言う脅迫観念を持たなくても大丈  
夫と思ってもらうための考え方です。この考え方で我が家の子どもたちは、早期  
英語教育をしてこなこなかったのですが、長男・現在中学3年生は中学校に入っ  
てから本格的に英語学習を始め、中学校1年生の夏あたりから全国的にも有名  
な廣津留真理さんの英語塾に1年程通い(現在は訳あって休室中)、中学校2年  
生終わりの辺りで実用英語検定準1級に合格しました。彼の英語習得スピード  
は速いと思いますが、それにはきちんと理由があると私は思います。その理由は  
英語を含めた勉強が好きな事と、自学の能力が高いことだと思います。つまり、  
早くから英語に触れる機会があることは決して悪いことではないし、恐らく良

いことではあると思いますが、それがかえって英語嫌いになったり、習い事（勉強自体）が嫌いになってしまうようでは、逆効果になるということ。月曜日から日曜日まで、習い事で放課後の予定パンパン（しかも時として深夜まで！）の子どもさんの話を聞くことがあります。自ら進んでやっているのなら良いのですが、子どもの可能性を伸ばしてあげたい、選択肢をたくさん持ってもらいたいとの親からの意志が強すぎる場合は、やはり冷静に考え直すことも必要かと思えます。勉強や学びはとても楽しいし面白く、やればやるほど身についていくことを自覚することが大切だと思います。私たち世代だと、自分自身が中学校から大学までおよそ10年間英語を勉強してきたにも関わらず、今現在まったく英語を話せないからダメ。子どもには早くから英語を教え込んで、自分たちと同じ轍を踏ませないようにと思うのは親心。でも、本質を知れば、そこまで肩肘張らずに英語と向き合えれると思います。

とすることで、続きは後編で。

S L 2605-3220-6732

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟